

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2024年4月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全般	．．．．． 1
2 各軍等	．．．．． 1
3 対台湾動向	．．．．． 5
4 対日動向	．．．．． 7
5 国境地域での活動	．．．． 10
6 軍事外交	．．．． 13
参考文献	．．．． 16

1 全般

2024 年上半期入隊の新隊員が 3 月下旬以降各教育隊に着隊し、4 月には本格的な教育訓練を開始。各部隊も機能別、小単位の訓練を実施し、練度を向上させている段階である。

4 月 19 日、戦略支援部隊を解組し、情報支援部隊を新編。3 月の全人代軍・武警代表団全体会議で習近平が指示した、「新領域の戦略能力向上」のための軍整備の一環である可能性がある。

対外行動に関しては、台湾・フィリピン（以下、比）に対する強硬姿勢が目立った。台湾に対しては、金門周辺海域での中国海警船パトロールの実施等、比に対しては、南シナ海での中国海警船による比巡視船への放水等、共に圧力を強化。いずれも海警船を最前線に配置し、グレーゾーンを利用し一方的な現状変更を行う戦略を継続している。また、日米豪比共同訓練への対応として、南部戦区が南シナ海で海空協同戦略パトロールを実施する等、米軍を基軸とした連携に強く反発した。

日本に対しては、日米同盟の強化、自衛隊の南西シフト等に繰り返し反発、台湾有事を見据え、第一列島線における日本の影響力排除を企図した認知戦を展開している。尖閣周辺海域では、石垣市のチャーターした海洋調査船に中国海警船が前回調査時より接近するという事象が報道された。ただし、それ以外の動向には変化なく、同船に国会議員団が乗船していたことを日本からの政治的メッセージととらえ対応せざるを得なかったものの、現時点では日本との過度の衝突は望んでいない可能性がある。

2 各軍等

(1) 陸軍

- 中緬国境地帯での陸空協同実員実弾演習 細部は 5 (2) の項参照

(2) 海軍

- 強襲揚陸艦 Yushen 級の訓練

4 月 6 日、東部戦区は「先日、東部戦区海軍某揚陸艦支隊は協同訓練を実施、昼夜間のヘリ離発着を演練」と公表¹。



左：強襲揚陸艦 3 番艦

右：艦載ヘリ

(資料源：东部战区微博网 20240406)

【コメント】

公表された写真から、強襲揚陸艦 Yushen 級の 3 番艦「安徽」の甲板上に 6 機のヘリが確認された。同艦は 22 年 11 月に既に就役と公表、23 年 3 月には昼間のヘリやエアクッション艇の離発着訓練が報道²されており、現在、ヘリ夜間離発着の段階まで戦力化が進んでいる可能性有。

(3) 空軍

○ WZ-7 が南シナ海北西部上空で確認

4 月 18 日、フィリピン人記者が、高高度無人偵察機 WZ-7 の可能性のある飛行体が同日、「西フィリピン海」(南シナ海北西部)上空を飛行している写真を SNS に投稿³。



SNS に投稿された飛行中の WZ-7
(資料源：THE WARZONE20240418)

【コメント】

比記者により撮影された WZ-7 は空軍に装備され、南シナ海に近い飛行場では下図の佛山空軍基地で駐機が確認されている。同基地から比周辺の監視のため、飛来した可能性があり、中国が比周辺における米軍の動向に注視し、情報活動を実施している可能性が大きい。



佛山空軍基地とルソン島の位置 (資料源：Google Earth に筆者が加筆)

米インド太平洋陸軍は、4 月 11 日に第一マルチドメイン・タスク・フォース (1st Multi-Domain

Task Force) が中距離ミサイルシステムを、米比共同演習「Salaknib 24」の一環として初めて比のルソン島北部に展開、同システムはスタンダードミサイル6 (SM-6)、トマホーク対地ミサイル(TLAM) が発射可能と公表⁴。これは米軍自身が「歴史的」な展開と表現しているように、米ロ間の中距離核戦力 (INF) 全廃条約失効後、初の地上発射型の中距離ミサイルシステムの展開である。

報道によれば、米陸軍の同ミサイルシステムはタイフーンと呼ばれ、最大射程 370 kmの対空・対艦ミサイルである SM-6、射程 1250~2500km の巡航ミサイルであるトマホークを発射可能。これが比に配備されれば、米軍は第一列島線内において台湾海峡での対空対艦戦闘及び中国沿岸部への対地攻撃が可能となり、中国にとっては第一列島線内において米軍の領域使用拒否の大きな阻害要因となる。

中国国防報道官は、4月25日の定例記者会見において「米国がアジア太平洋地域に中距離ミサイルを配備することに断固反対」⁵と反発しており、今後も情報活動を継続していく可能性有。



輸送中の米陸軍中距離ミサイルシステム
(資料源：U.S. Army Pacific Public Affairs)

(4) ロケット軍

○ 衛星の監視を回避した夜間訓練

4月12日、「ロケット軍某旅団が某日、夜間の実員対抗訓練を実施。敵衛星の通過時刻に灯火管制・偽装・分散等を実施し、偵察衛星の監視を回避」と報道⁶。

【コメント】

近年、衛星への対応訓練の報道はなされているが、今回は夜間の対抗訓練における想定でも確認された。ロケット軍は常時衛星に監視されているとの認識の下、対応訓練を実施している可能性有。

(5) 戦略支援部隊

○ 情報支援部隊の新編

4月19日、北京で中国人民解放軍情報支援部隊編成完結式が開催され、前身である戦略支援部隊が解組。「新領域の戦略能力向上」のための軍整備の一環である可能性がある。

細部は中国安全保障動向（特報：2024年4月26日）「人民解放軍情報支援部隊の新編」参照

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向を纏めたのが以下の表である。

4月は中国軍機延べ253機(内、中間線越境が延べ156機)、中国艦艇延べ192隻が確認。1日における軍用機最大確認数は30機、海空協同戦備パトロールは4回であり、特異な活動は公表されなかった。

4月17日には米軍P-8A対潜哨戒機が台湾海峡上空を通過、これに対し東部戦区報道官は「東部戦区は軍用機により警戒監視を行い、法に基づき対処」⁷と表明。



(資料源：中華民国国防部 HP を基に筆者が作成)

(2) 台湾海峡を飛行する民間機の空路変更

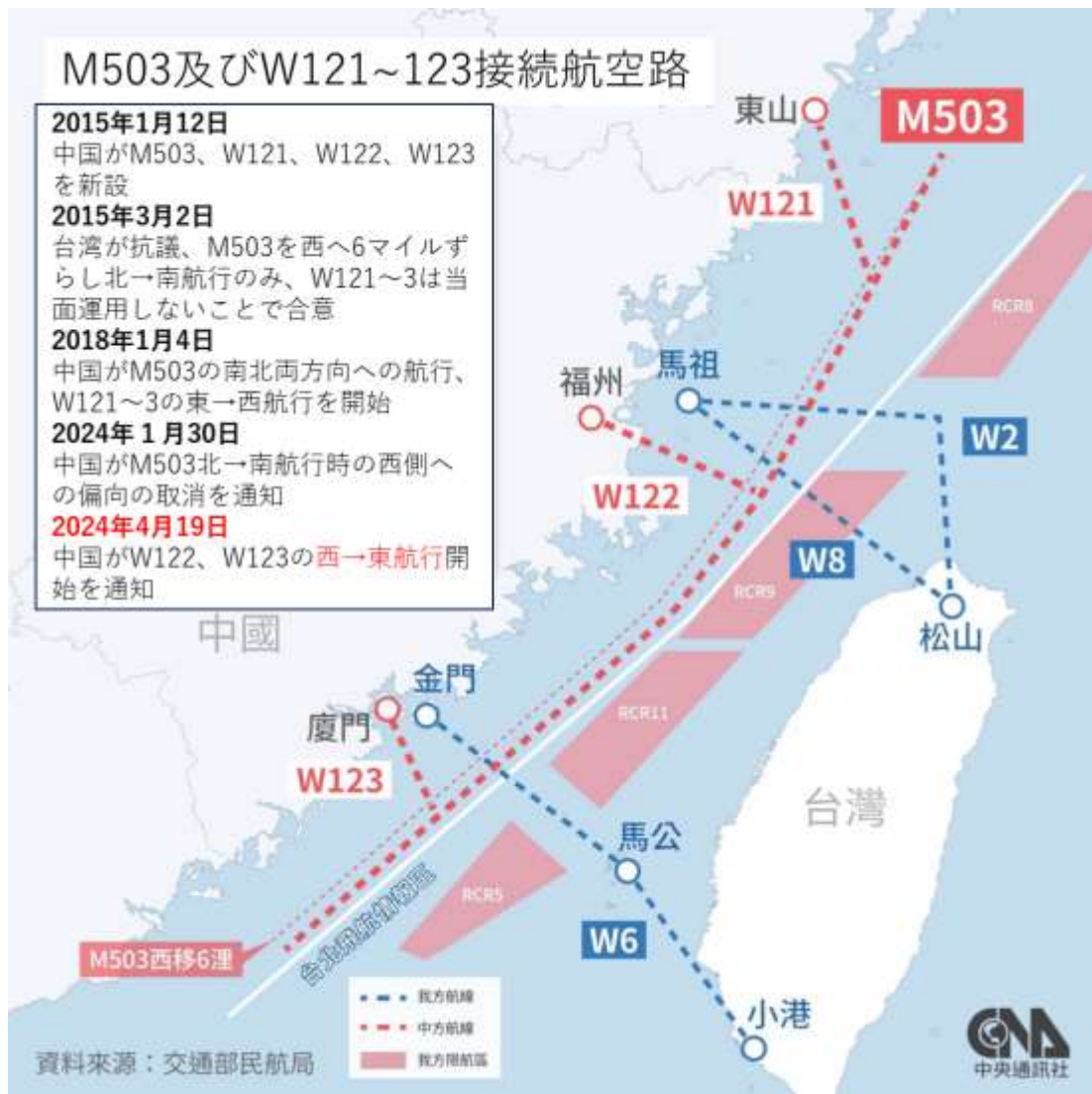
4月19日、中国民用航空局は福建地区空域の飛行便の増加等に対応するための調整として、19日からM503航路に接続するW122、W123航路の西から東への運航を開始する、と通知⁸。

【コメント】

中国は近年、台湾海峡上空の民間航空路の設定を、台湾への圧力として利用してきた。

本年1月13日の台湾総統選挙において民進党の頼清徳氏が当選、その後の1月30日にM503を東側にずらす処置を発表した。今回、総統就任式1か月前の4月19日に接続航路の西から東への航行を開始しており、台湾への圧力を強化した可能性がある。

また、台湾軍は海峡付近の中国軍用機の活動を常時監視・発表しており、民間機がより中間線に近い上空かつ大陸から台湾側へ飛行することにより、侵攻兆候を曖昧にし、台湾軍の監視の負担を増大させる目的も有している可能性がある。



M503 及び W121~123 接続航空路 (資料源：中央社 20240419 の図に筆者が加筆)

(3) 金門周辺海域における海警船法執行パトロール

4月29日、中国海警局は「福建海警局が金門周辺海域で常態的な法執行パトロールを実施」と発表⁹。

【コメント】

2月14日に金門島周辺海域において台湾当局の取り締まりを契機に中国漁民2名が死亡したことを受け、福建海警局は2月18日以降、同海域でパトロール開始を公表した。

2月は18日・25日の2回、3月は15日の1回、パトロール実施を公表しており、4月も1回のみ公表。ただし、「4月以来金門周辺海域の法執行パトロールを強化しており、関係海域の統制を更に強化」⁹と述べており、今後も同海域での法執行パトロールを常態化させ、現状変更を進めていく可能性がある。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

海上保安庁発表による尖閣諸島周辺での中国海警船の動向を纏めたのが以下の表である。定期的な領海侵入の他、日本漁船・調査船に対応した領海侵入を実施した。



(資料源：海上保安庁 HP を基に筆者が作成)

(2) 日本調査船への対応

4月26日及び27日、尖閣諸島の海洋調査を行うため、石垣市がチャーターした調査船が尖閣諸島周辺海域で3回目の海洋調査を実施した。調査船には中山義隆市長、東海大学の山田吉彦教授のほか市議、メディア関係者も乗船。27日には防衛相経験者の稲田朋美衆院議員ら国会議員団も乗船した。

八重山日報では、「中国海警局の艦船が調査船まで約1km 距離に接近した。2023年1月に実施した2回目の調査では、中国艦船は調査船から目視で確認するのが困難なほど距離を空けて追跡しており、今回の調査に対し、中国側がより強硬に対応してきた可能性がある。」と報道された¹⁰。



4月27日0944頃、領海侵入した海警船2502と規制する海上保安庁巡視船かびら
(資料源：八重山日報20240501)

【コメント】

定期的な領海侵入1回、日本船舶には海警船1～2隻による領海侵入を行った。4月25日の漁船対応が1隻だったのは、26日以降の調査船の行動を予め承知しており、調査船対応に2隻を待機

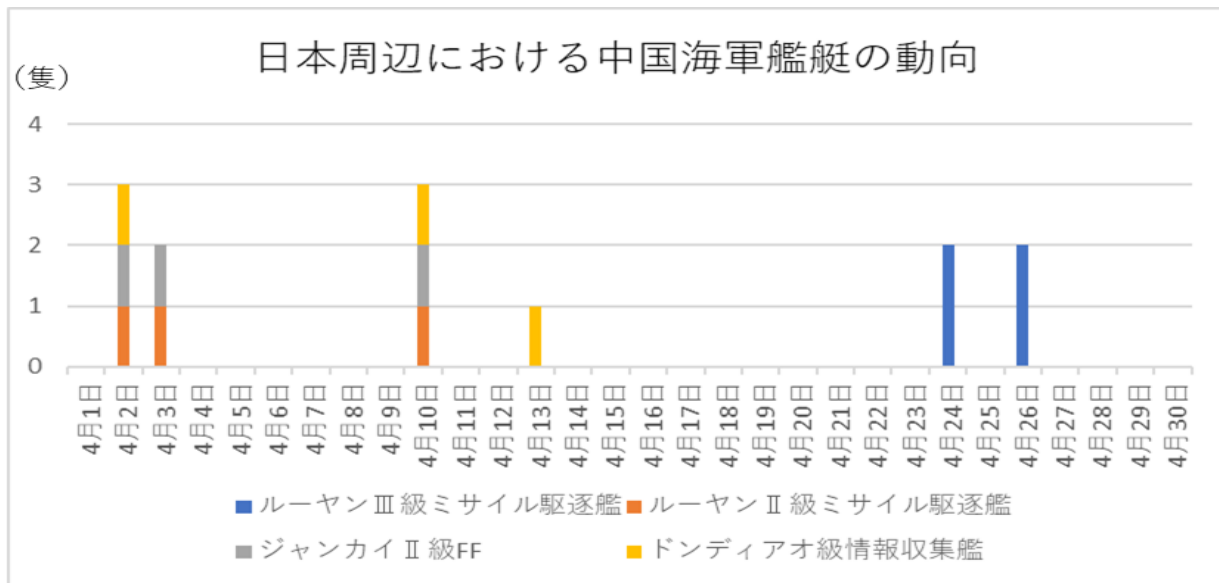
させていた可能性がある。

今回は国会議員団が乗船していたため、これを日本側からの政治的メッセージととらえ対応せざるを得ず、前回の調査より至近距離に接近してきたものの、非武装船 2 隻による対応は漁船対応とほぼ同様であり、現時点では過度な衝突は回避したいとの企図を有している可能性がある。

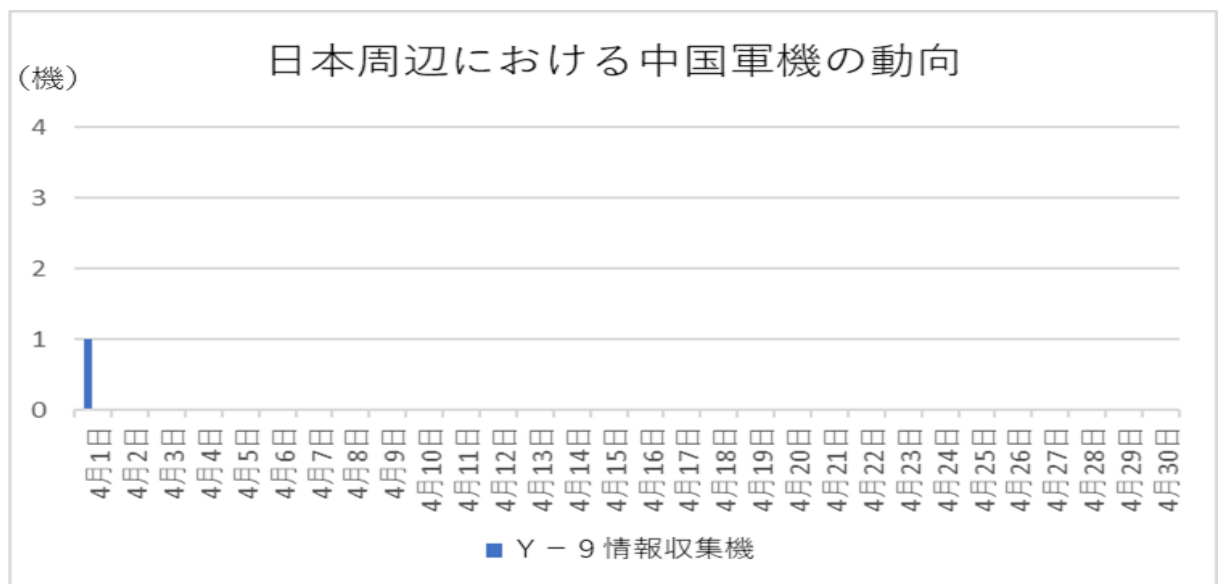
(2) 日本周辺での軍の活動状況

防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海空軍の動向を纏めたのが以下の表である。

先月 3 月は、中国艦艇 2 隻の石垣島・宮古島南方海域での遊弋及び無人機 (WZ-7) 1 機の日本海上空での飛行を初公表する等特異事象が確認されたが、4 月は特異な活動は公表されなかった。



(資料源：防衛省統合幕僚幹部 HP を基に筆者が作成)



(資料源：防衛省統合幕僚幹部 HP を基に筆者が作成)

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋）

○「日本の海上輸送群創設は悪巧を隠匿」解放軍報 2024.4.3¹¹

2025年3月に自衛隊が海上輸送群創設を予定しているが、徐々に軍拡を推進し、地域情勢を混乱させようとする悪巧みが背景にあり、周辺国の警戒心を高めている。創設により、自衛隊と在日米軍のアセットの統合運用能力を強化し積極的に大國に対抗する急先鋒になろうとの悪意が鮮明だ。

○「日本の南西諸島の作戦能力構築強化に警戒」陸軍工程大学 解放軍報 2024.4.8¹²

勝連分屯地で地対艦ミサイル連隊が発足、日本は奄美・宮古・石垣等主要島嶼を既に要塞化しており、連携により海峡に進出する敵艦艇を阻止・打撃できるという攻勢的特性は明らか。日米同盟を強化し、軍事大國へ邁進している。

○「名は“安保協力”、実は安保への脅威」解放軍報 2024.4.10¹³

AUKUSへの日本加入や技術協力は日本が平和憲法の制限を超え、軍事政治大國へ邁進する危険な一歩を助けることとなる。第2次大戦の敗戦国として日本は侵略の歴史を深く反省し、平和的発展により、アジアの隣国や国際社会からの信頼喪失を回避しなければならない。

○「米日豪比が初の共同海上演習を実施」上海環太国際戦略研究中心学術委員会主任 解放軍報 2024.4.11¹⁴

日豪は米國が南シナ海を混乱させるのに追随し火に油を注いでいる。南シナ海の平和と安定に寄与せず、自ら災いを招く結果となろう。

○「日米同盟の強化は地域の平和と安定に重大な脅威」解放軍報 2024.4.12¹⁵

10日の日米首脳会談が実施され、日米は新型ミサイル等での協力を強化するということがだが、これは日本が、米國の多くの領域で“Small yard, high fence”（筆者注：真に守るべき分野は何なのかを限定し、そこに厳重な鍵をかけるというセキュリティ・クリアランスの考え方）を設けようとする野心に迎合したもので、アジア太平洋乃至は全世界の平和と安定に脅威となる。

○「日米豪比の南シナ海での初の共同演習に関する質問への国防部報道官の回答」国防部 HP¹⁶

域外國が南シナ海に頻繁に艦艇・軍用機を派遣し武力を誇示し、中国に対する小サークルを形成し、共同防衛条約にまで言及するのは中国への脅迫であり、無責任かつ危険極まりない。

○「日米同盟の危険な方向への転換に警戒」解放軍報 2024.4.16¹⁷

岸田首相の訪米が終了したが、米國は日本の軍拡の軛を解き、米を核心とする同盟ネットワークを強化しようとしており、日米同盟を危険な方向へ加速させている。

○「日米の結託が加速、悪辣な下心が暴露」解放軍報 2024.4.18¹⁸

日米同盟を強化し、アジア太平洋國家を小サークルに引き入れることは、地域情勢を悪化させ、最終的には自らに跳ね返ってくるであろう。軍拡を停止し、周辺國との良好な関係を維持することこそ賢明な選択である。

○「日本、初の“空母2隻”長期海外展開」解放軍報 2024.4.25¹⁹

海上自衛隊は5月に実質的な軽空母であるいずもとかがを含む艦艇編隊を太平洋・インド洋に7か月長期派遣し、米豪等と訓練予定。日本は歴史的な罪を有する國家として悔い改めず、米と軍事関係を強化し、漁夫の利を得ようとしており、高度の警戒が必要。

○ 「国防月例記者会見での日本関連各質問に関する報道官発言」国防網 20240425²⁰

- ・(AUKUS への日本加盟に関し)排他的な小サークル形成に反対。日本は歴史の教訓をくみ取り、軍事安全保障領域での言動を慎むべき
- ・(映画オッペンハイマーに関連し、日本の戦争犯罪に関し)自衛隊員が A 級戦犯を祭る靖国神社に集団参拝し、退役将官が同神社の宮司に就任した。これらは日本の侵略の歴史への誤った態度を反映している。
- ・(日米同盟強化に関し)日米同盟が地域の平和と安定に危害を及ぼすのは日に日に明らか。
- ・(日米比首脳会談に関し)釣魚島(筆者注:ママ)は国際法上既に中国に返還されており、日本が火事場泥棒的に利益を得ようとするのは妄想である。
- ・(岸田首相の中国が核整備を加速させているという発言に関し)日本は被爆国でありながら、米国に核軍縮を要求しないのみならず、核の傘に依存し、米戦略戦力の前方配置に協力し地域と世界の安定を破壊しており、国際社会は高度に警戒すべき。

【コメント】

日米同盟の強化、米豪比との協力、AUKUS への参加、南シフト等に繰り返し反発しており、台湾有事を見据え、第一列島線での日米の協力を排除する目的をもって認知戦を実施。

歴史を利用した日本の防衛力整備への牽制、米等との関係強化が最終的には日本にとって不利との論法の刷り込み等、従来通りの手法を展開している。

5 国境地域での活動

(1) 南シナ海

○ 日米豪比共同訓練への対応

南部戦区は「4月7日、南部戦区は南シナ海で海空協同戦略パトロールを実施、南シナ海を混乱させ、ホットスポットを生み出そうとする全軍事活動を掌握²¹」、「4月7～8日、南部戦区は南シナ海で海空協同突撃、軍用機・艦艇編隊によるパトロール等を演練を実施、高度の警戒態勢を維持²²」等表明。

【コメント】

4月6～7日、南シナ海で初の日米豪比共同訓練が実施され、海上自衛隊から護衛艦1隻、他3か国からは沿海域戦闘艦、フリゲート、P-8A等が参加²³したことから、これに対する牽制の可能性大。

○ 米比共同演習への対応

情報収集活動の実施 細部は2(3)の項参照

○ スカボロー礁

中国海警局は、4月30日に黄岩島(英語名:スカボロー礁)付近の海域に侵入した比沿岸警備隊4410巡視船と3004公船を離脱させたと表明²⁴。

一方、比沿岸警備隊報道官は、同日、バホ・デ・マシンロック(英語名:スカボロー礁)で沿岸警備隊の多目的巡視船4410と漁業水産局の多目的巡視船3004が中国海警船4隻と海上民兵船6隻の対応を受け、海警船からの放水で沿岸警備隊巡視船が損傷したが、巡視を継続と表明²⁵。



スカボロー礁の位置（資料源：Google Earth に筆者が加筆）

写真：比巡視船に放水する中国海警船（資料源：CNN20240430）

【コメント】

スカボロー礁（常設仲裁裁判所は 2016 年に岩と裁定）は 2012 年から中国が実効支配しており、同じく領有権を主張する比の漁船の活動等を妨害してきた。特に 2023 年 9 月に中国がスカボロー礁南東部にフローティングバリアーを設置したのが確認されて以来、同礁付近での中国海警船と比沿岸警備隊巡視船等との対峙が増加している。

中国は南シナ海領有権問題関係国の中で、比に最も強硬な姿勢で臨んでおり、米国との関係強化を図る比に圧力をかけている可能性が大きい。

(2) ミャンマー（以下、緬）国境地帯での演習

4 月 2 日、南部戦区が年度訓練計画に基づき 2 日から中緬国境地帯の中国側において陸空協同実弾演習を実施と公表²⁶。部隊の迅速な機動、精密・協同射撃等を実施し、国家主権・国境地帯の安定・人民の生命財産安全を擁護の意思を示したと表明。なお、演習開始前に両国両軍の協定等に基づき緬側に通知を実施。

また、4 月 17 日にも同様の陸空協同実弾演習を実施と公表²⁷。

○ 陸空協同実弾演習地域

2～3日は下図赤丸4か所の地域を実弾射撃の立ち入り制限区域と通知²⁸。

17日は青丸の基地から無人機等が離陸した可能性あり。



(資料源：中国人民解放軍雲南省徳宏軍分区通知 20240402 を基に、筆者が Google Earth に加筆)



2日の訓練状況 左：J-10 戦闘機、右：多連装ロケット砲 (資料源：CCTV「軍事報道」20240403)



17日の訓練状況 左：GJ-2、右：防空レーダ施設 (資料源：CCTV「軍事報道」20240418)

【コメント】

緬では2023年10月下旬に、中国と国境を接する東部シャン州で3つの少数民族の武装勢力が緬国軍に対し攻撃を開始。それ以降、中国が中緬国境地域で実弾演習を実施するのは、2023年11月25日以来2回目及び3回目。

23年の演習では参加部隊は陸軍辺防旅団であったが、2日は報道映像²⁹から空軍J-10戦闘機、陸軍は昆明に所在する第75集団軍隷下の合成旅団、砲兵旅団、陸航旅団が参加した可能性が大きい。また、17日は防空主体の演習であり、偵察・攻撃一体型多用途無人機GJ-2も確認された。

本年1月には中国側に緬からの砲弾が落下し負傷者が発生し、緬側に厳正な申し入れを行ったことを中国外交部が表明しており、実弾演習の列度及び頻度を上げることで緬側に中国への波及に対しては強く自制を促した可能性がある。

6 軍事外交

(1) 米国

○ 米中海上軍事安全協議メカニズム作業グループ会議

米中両軍は4月3～4日、ハワイで2024年度米中海上軍事安全協議メカニズム作業グループ会議を開催、2021年の同会議以降の「米中海空遭遇安全行為準則」の実施状況を評価した上で、両国の海上軍事安全問題を改善措置について討議。中国側は、「航行と飛行の自由の名目で中国の主権と安全を害するいかなる行為にも断固反対」と明言³⁰。

米側団長のインド太平洋軍・フランシス陸軍大佐は、「地域の他の全軍も含め、中国軍と開かれた直接の意思疎通をすることは、事故や誤解を避けるために最も重要」と表明³¹。



会議の状況（資料源：USINDOPACOM）

○ 米中国防相 TV 電話会談

オースティン米国防長官と中国の董軍国防相は4月16日、TV電話で会談。董国防相は「中米両軍は衝突・対抗せず、実務協力を行い、相互信頼を深めていくべき」と述べる一方、「解放軍は台湾独立勢力の分裂活動と外部からの支援を一切放置しない。米側は南シナ海での中国の領土主権と海洋権益を尊重し、行動により地域の平和と中米関係の安定化を図るべき」と主張³²。

オースティン長官も軍事交流の重要性に言及する一方、「航行の自由の、特に南シナ海における自由は重要であり、米国は安全かつ責任をもって国際法が認めるどこの場所でも行動する。台湾海峡の平和と安定は重要」と発言³³。

【コメント】

米中は決定的な衝突を避けるべく、不測自体に備えたメカニズム構築を進めているものの、台湾問題では相互に一切妥協しない姿勢を堅持している。米国は米中国防相会談が開催された翌日に P-8A 対潜哨戒機を台湾海峡上空で航行させており、中国はこれを米の妥協しない意思表示と受け取った可能性がある。

(2) ベトナム（以下、越）

○ 中越国防相会談

4月11～12日、第8回中越国境国防友好交流の一環として、越北部ラオカイ省で董軍中国国防相とファン・バン・ザン越国防相が会談。軍事交流の更なる進展に合意し、中国人民解放軍南部戦区と越海軍とのホットライン開設に関する覚書に調印³⁴。



ファン・バン・ザン越国防相（左）
と董軍中国国防相（右）

（資料源：CCTV20240412）

○ 中越 2024 年第 1 回トンキン湾共同パトロール

4月27～29日、中越海警当局の巡視船2隻ずつが参加し、トンキン湾共同パトロールを実施、2006年以來27回目。



パトロール中の中越巡視船

（資料源：中国海警局 20240430）

【コメント】

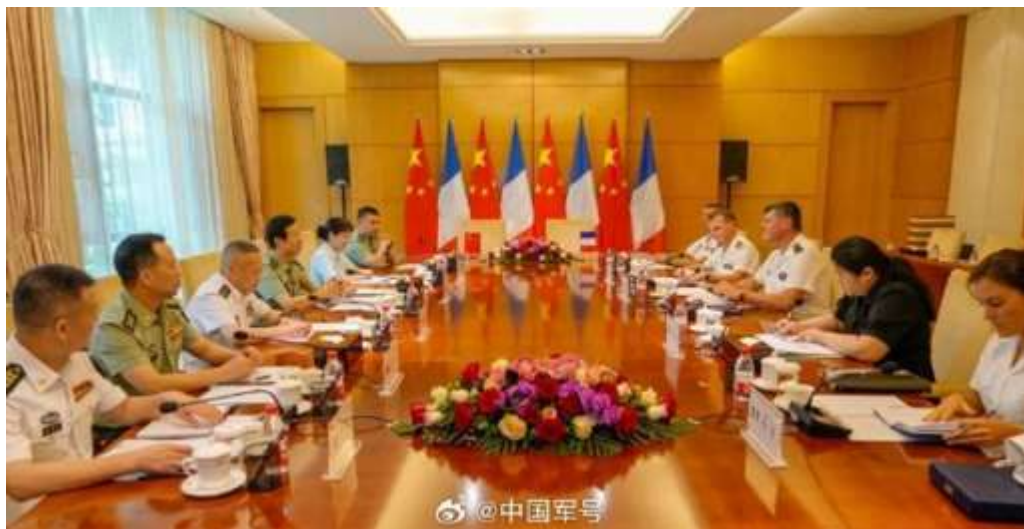
越は中国との間で南シナ海領有権問題を抱えており、かつ 2022 年以降、南沙諸島での埋め立てを加速させている。

しかし、2023 年 12 月に習近平国家主席がベトナムを公式訪問。今回は 2023 年 12 月 29 日に就任した董軍中国国防相が初の外遊として越を訪問し、また年次の共同パトロールを実施する等、協力関係を強化している。

中国は現在、南シナ海において米との協力を強化する比への圧力を高めており、比への対応を最優先するため、越との関係を強化し、ASEAN 内での越・比両国間の分断を図っている可能性がある。

(3) フランス (以下、仏)

4 月 25 日、王秀斌南部戦区司令官は、訪中したダンディグネ仏太平洋海洋管区司令官と会談。「中国人民解放軍南部戦区と仏軍太平洋海洋管区との戦区間海空協力対話枠組み文書」に署名した。



会談の状況 (資料源：中国軍号 20240425)

【コメント】

南部戦区と仏軍太平洋海洋管区の対話強化は、2023 年 4 月にマクロン仏大統領訪中時に発表された「中仏共同声明」で合意されたものであり、中仏両国は政治的軍事的な協力を深化させている。しかし一方で、仏は翌日の 26 日、南シナ海で米仏比三か国による初の共同訓練を開始した。

仏は米国と協力するものの米国追従ではない対中政策を標榜し、中国はそれを利用したいとの企図がある可能性がある。

【参考文献】

上記記述の資料源は以下の通り。

なお、資料源の記述のないものは筆者の分析により、可能性ありと評価したものである。

- 1 东部战区微博网 20240406
<https://weibo.com/n/%E4%B8%9C%E9%83%A8%E6%88%98%E5%8C%BA>
- 2 CCTV 正午国防军事 20240302
<https://tv.cctv.cn/2023/03/02/VIDEES4RVJMXHrnTuPdIHHDO230302.shtml>
- 3 THE WARZONE20240418
<https://www.twz.com/air/chinas-high-altitude-wz-7-drone-has-appeared-near-the-philippines>
- 4 U.S. Army Pacific Public Affairs
<https://www.pacom.mil/Media/News/News-Article-View/Article/3742084/us-armys-mid-range-capability-makes-its-first-deployment-in-the-philippines-for/>
- 5 国防部網 20240425
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16303631.html
- 6 中国軍網
http://www.81.cn/yw_208727/16300166.html
- 7 东部战区 weibo
<https://weibo.com/n/%E4%B8%9C%E9%83%A8%E6%88%98%E5%8C%BA>
- 8 中国民用航空局 20240419
https://www.caac.gov.cn/XWZX/MHYW/202404/t20240419_223911.html
- 9 中国海警局 20240430
https://www.ccg.gov.cn//2024/hjyw_0429/2453.html
- 10 八重山日報 20240501
<https://yaeyama-nippo.co.jp/archives/23174>
- 11 解放軍報 20240403
http://www.81.cn/szb_223187/szbqx/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-03&paperNumber=04&articleid=928408
- 12 解放軍報 20240408
http://www.81.cn/szb_223187/szbqx/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-08&paperNumber=04&articleid=928671
- 13 解放軍報 20240410
http://www.81.cn/szb_223187/szbqx/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-10&paperNumber=04&articleid=928855
- 14 解放軍報 20240411
http://www.81.cn/szb_223187/szbqx/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-11&paperNumber=11&articleid=928933
- 15 解放軍報 20240412

- http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-12&paperNumber=04&articleid=929017
- 16 國防省 HP20240412
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16300462.html>
- 17 解放軍報 20240416
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-16&paperNumber=04&articleid=929264
- 18 解放軍報 20240418
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-18&paperNumber=11&articleid=929451
- 19 解放軍報 20240425
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-25&paperNumber=11&articleid=929952
- 20 國防網 20240425
http://www.mod.gov.cn/gfbw/xwfy/lxjzhzt/2024njzh_247047/2024n4y/index.html
- 21 南部战区微博 20240407
<https://weibo.com/u/7468777622>
- 22 南部战区微博 20240409
<https://weibo.com/u/7468777622?lpage=profileRecom>
- 23 海上自衛隊 HP20240406
<https://www.mod.go.jp/msdf/release/202404/20240406.pdf>
- 24 中国海警局 20240430
https://www.ccg.gov.cn//2024/wqzf_0430/2454.html
- 25 PHILIPPINE NEWS AGENCY20240403
<https://www.pna.gov.ph/articles/1223727>
- 26 「解放軍報」 20240403
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-03&paperNumber=02&articleid=928425
- 27 中国国防部網 20240417
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16301374.html>
- 28 環球網 20240401
<https://mil.huanqiu.com/article/4HDAkwJUKG5>
- 29 CCTV 「軍事報道」 20240403
https://tv.cctv.com/2024/04/03/VIDEzXEGacGKyduqFnAOqUL8240403.shtml?spm=C52346.Piu_mOrlYLNUM.E0VXtwLj8YU7.3
- 30 中国国防部網 20240404
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16298958.html>

- 31 U.S. Indo-Pacific Command20240405
<https://www.pacom.mil/Media/News/News-Article-View/Article/3731939/us-Indo-pacific-command-representatives-meet-with-chinese-counterparts-at-milit/>
- 32 中国国防部網 20240417
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16301367.html>
- 33 U.S. Department of Defense20240716
<https://www.defense.gov/News/Releases/Release/Article/3742639/readout-of-secretary-of-defense-lloyd-j-austin-iiis-call-with-peoples-republic/>
- 34 中国軍網 20240413
http://www.81.cn/szb_223187/szbqxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-04-13&paperNumber=01&articleid=929062
- 35 中国海警局 20240430
https://www.ccg.gov.cn//2024/gjhz_0430/2455.html

中国軍事動向月報 2024年4月

2024年5月7日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。